



平成27年6月2日(火) 事務所内職員8名を対象に日野川堰・法勝寺川堰の説明会を行いました。この説明会は主に当事務所に新しく赴任してきた職員を対象として行ったもので、日野川堰や法勝寺川堰の構造や操作方法等について理解を深め、いざという時に複数の職員が対応できるようにする目的があります。今回は日野川堰倒伏時に使用する施設を紹介します★

■現在の日野川堰の様子 (H27.6)



日野川堰の役割

日野川と法勝寺川の水をそれぞれの取水口から取り込み、米川用水を通り弓浜半島へ農業用水を安定的に供給すると共に、米子市内を流れる旧加茂川の浄化用水の確保に役立っています。

日野川堰とは

日野川堰は、ナイロン織布と水密性を保つクロロプレン系ゴムで構成された厚さ5.5mmの円筒状のもので、普段はゴム袋を風船のように膨らませて水をせき止め、洪水時には空気を抜いて底につぶして洪水を流す構造となっています。

■日野川堰倒伏時 (H26.10)



図で表すと

↓川の水

2.6m

日野川堰
(ゴム引布製起伏堰)

水をせき止め、高低差を利用して弓ヶ浜半島まで水を供給しています！！

日野川堰倒伏時使用施設

ブローアーム

(ゴムを膨らませる)

日野川堰 堰柱内

(ゴムの空気を抜く)

遠隔操作

中央操作室

(事務所内)

それぞれの施設内で操作可能ですが、基本的にはココで操作

中央操作室

機器を使って
他の部屋にある装置を
操作！！

実際の操作画面を見たい！と思われた方は、
ぜひ事務所まで見学に来て下さい♪
(要事前連絡)



説明会の様子



モニターで川の様子を
チェックできます！

ブロー室

堰のゴムへ空気を送る設備

ブロー室で
空気が作られる

事務所

日野川堰

事務所から堰の下を通して空気が送られる

日野川堰 堰柱内

堰のゴムの空気を抜く施設

堰の近くにあるこの建物。
横から見ると窓がついているため、

人が居る？

と思う人も多いと思います。



扉を開けると下までずらーっと
続く長い螺旋階段が！

ひたすら階段を降ります…

その先にゴムの空気を抜く
ための設備があります☆

普段は無人